



生成 AI 活用の現状と未来。 ～導入から活用までのご提案～



竹内 尚志 徳島県よろず支援拠点コーディネーター

1. はじめに

徳島県よろず支援拠点コーディネーターの竹内尚志です。よろず支援拠点では経営全般の相談を受けていますが、私は主にIT系やマーケティング系の相談を担当しています。私が担当するこのジャンルにおいては、2022年頃から「Chat GPT」がその精度、使いやすさから一気に知名度を上げ、急激な勢いで市民権を得た感があります。ただ、「日常的に使っている」という方は意外に少ないような印象もあります。事実、私の元には「積極的に使ってみたいけど、使い方が分からない」という方と「使ってみただけど、使い物にならない」という相談の声も多く聞かれます。そこで、この誌面をお借りして、Chat GPTをはじめとした生成AIに関する情報を提供できればと思います。

2. AIの歴史・現在・未来

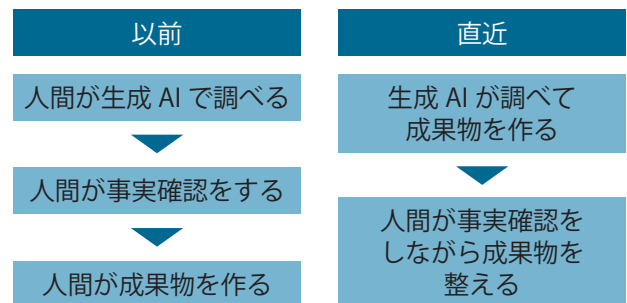
この記事を読まれている方の多くの方にとって、AIといえば「人工知能」という表現で昭和後期に科学系の雑誌やSF系の小説や漫画の中で聞いたことがある・・・という記憶がありませんか？

その後、ぱったり聞かなくなって「未来の夢物語」といったような印象をお持ちの方も多かったのではないのでしょうか？ところが平成後期から「クラウドコンピューティング」や「ディープラーニング」などといったキーワードとの抱き合わせでこのAIが語られることが増え、令和に入ってから生成AIと言われるジャンルのAIが各社から登場し、一気に「未来の夢物語」から「今の現実」に変わりました。過去のAIと現在のAIの最も大きな違いはインターネットによって蓄積された情報の量にあり、この莫大な情報を保存できる保存領域（メモリやストレージ）と演算処理するだ

けのハードウェア（CPUやGPU）の性能向上があって、現在のAIは成り立っています。以前はコストダウンを得意とするアジア諸国が保存領域の製造でリードしていましたが、現在はより高い演算処理を実現する半導体のメーカーがその覇権を争っています。ゆえに半導体メーカーの株価が伸び続けている訳ですが、信じられないような巨額の投資が続いていることもあり、しばらくはこういった半導体技術の成長が見込め、それに連動して皆さんが使う生成AIも精度や速度の面でより満足できるものに発展していく見込みです。

3. で、何ができるの？

わずか数ヶ月前まで、生成AIと言えば「調査を代行し、業務を支援してくれる」といったような使い方でしたが、今はもう少し発展して「調査して成果物を作ってくれる」という領域にまで駒を進めた印象があります。具体的なフローでいえば・・・



こういった変化が見受けられます。ここでいう成果物とは営業担当の方なら提案書、経理担当の方なら決算書などといったように、それぞれの立場によって異なりますが、仕事のフローにはこういった変化が起こっています。つまり、今は「調査に使う」というフェーズが終わり、「成果物を生成させる」段階に入っ

たことが分かります。また、さらに細かく分類するならば、現時点では各種書類などの「時間軸を伴わない成果物を生成させる」段階にあり、そう遠くない近い将来には音楽や動画などの「時間軸を伴う成果物を生成させる」段階に移行します。いずれにしても、ここで注目すべき点は「人間」という主語が登場する回数が減っていることであり、これが最低賃金の上昇、少子高齢化による労働人口の減少などといった世の趨勢とによって求められる「生産性向上」につながっていくわけです。具体的には以下のような業務改善に寄与できます。

●会計関係

決算書案の作成、経営分析、予算策定の支援など

●労務関係

適合する補助金の確認、適切な人事評価制度の構築と評価、スケジュール調整など

●総務関係

物品管理の予測、施設管理の最適化、社内文書の自動作成など

●営業職

提案書の作成、報告書の作成、見込み客のリスタアップ

●マーケティング関係

SNSなどの自社メディアの運用、広告コピーの作成、市場トレンドの分析など

といったような活用方法がすでに射程距離内に入っていると考えられます。

4. 本格的な活用に必要なものとは？

先の活用事例を読んで、その内容について「信じがたい」と感じた方、逆に「何とかかなりそう」と感じた方に分かれると思います。そして、おそらく「信じがたい」と感じた方の方が多いのではないかと思います。では「その差は何なのか？」という話になりますが、これは現時点におけるデジタルデータの量と質によるところが大きいのではないかと思います。汎用性の高いアプリで作られた事務系のデータ、しっかり整備された社内のマニュアル、一定のフォーマットで記載さ

れた報告書をはじめとした社内文書・・・などといったものが揃っていれば、これを生成AIに機械学習させることができ、個々に特化した生成AIを作ることが可能になります。ここまで、デジタル化のステップをしっかりと踏んでこられた方々については、AIの導入のステップも早く、精度の向上も早いということになります。

5. 私たちができること

最後に、当拠点の話に戻します。当拠点では各種の専門家が経営に関する悩みの解決をお手伝いしています。その業務の一部として、ここまでお話ししたようなAIの活用とその事前準備についてのご支援が可能です。AI活用への第一歩として、お気軽にご相談ください。皆さんの業務でも、AI活用による効率化が期待できるかもしれません。この機会に一度、一緒に考えてみませんか？

※よろず支援拠点は公的支援機関であり、相談は無償です。お気軽にお声掛けください。



著者略歴：竹内 尚志（たけうち・ひさし）
合同会社 Info-design 代表社員
IT コーディネーター

よろず支援拠点の連絡先は以下のとおりです。

徳島県よろず支援拠点

徳島県徳島市南末広町5番8-8 電話 **088-676-4625**
徳島経済産業会館2階
HP <https://yorozu-tokushima.go.jp/>

受付時間

【平日】9:00～17:45

【休日相談会】

- 第1・第3土曜日 10:15～17:00 アミコビル9F
- 第2・第4日曜日 10:00～17:00 徳島駅前ポッポ街

（最新情報を確認して下さい）



新型コロナウイルスに関する経営相談窓口を設置しております。相談希望の方は上記、徳島県よろず支援拠点にご連絡ください。